資料６

北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画
策定のためのアンケート調査結果報告【概要】

調査概要

１ 調査の目的

本調査は、「北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画」の策定にあたり、基礎資料とするために実施しました。

２ 調査概要

●調　査　名：北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画策定のためのアンケート調査

●調 査 期 間：令和４年 12 月

●調 査 方 法：郵送による配布・回収

調査種類	対象		配布数	回収数	回収率
障がい者アンケート	障害者手帳をお持ちの方	今回調査 R4.12	1,000	634	63.4%
		前回調査 R2.3	1,000	641	64.1%
障がい児アンケート	障害者手帳をお持ちの方･障害児通所支援等を利用している障がい児の保護者	今回調査 R4.12	100	64	64.0%
		前回調査 R2.3	100	53	53.0%

●本報告【概要】では、障がい者アンケート結果を【障がい者】、障がい児アンケート結果を【障がい児】と表記しています。

●本報告【概要】では、障がい種別を次のとおり表記しています。

身体障害者手帳所持者	身体障がい
療育手帳所持者	知的障がい
精神障害者保健福祉手帳所持者	精神障がい

調査結果【抜粋】

■介助･援助の状況(介助･援助者)について

主な介助・援助者【全体版Ｐ２７】

【障がい者】の主な介助・援助者については、「配偶者（夫、妻）」の割合が最も高く、次いで「介助・援助している人はいない（必要ない）」、「父、母」となっています。

年齢別でみると、【40 歳代】以下で「父、母」の割合が最も高くなっています。

障がいの種類別では【知的障がい】【精神障がい】で「父、母」の割合が最も高くなっています。

介助・援助における悩みや心配事【全体版Ｐ１５７】

【障がい児】の、介助・援助における悩みや心配事については、「自分が高齢で介助・援助できなくなったときのことなど、将来が不安である」の割合が最も高く、次いで「自分の時間がもてない」、「身体的な負担が大きい」「目を離せないことが多く、精神的に疲れる」となっています。

■外出の状況などについて

外出の頻度【全体版Ｐ２９、１１４】

外出の頻度について、【障がい者】、【障がい児】ともに「週に５日以上」の割合が最も高くなっています。

障がいの種類別では、いずれも【身体障がい】で外出の頻度が低い傾向が見られます。また、【障がい者】では、【精神障がい】も外出頻度が低い傾向となっています。

外出の際に困っていること【全体版Ｐ３８，１１５】

外出の際に困っていることについては、【障がい者】【障がい児】ともに「とくに困っていることはない」の割合が最も高くなっています。

次いで、【障がい者】では「歩道が狭く、道路に段差が多い」、【障がい児】では「他人との会話が難しい」となっています。

ご近所づきあいの程度【全体版Ｐ４２、１２０】

ご近所づきあいの程度については、【障がい者】で「あいさつ程度はしている」、【障がい児】で「必要に応じてしている」がそれぞれ最も高くなっています。

障がいの種類別では、【障がい者】の【知的障がい】【精神障がい】、【障がい児】の【身体障がい】で「ほとんどしていない」の割合がそれぞれ高い傾向となっています。

地域の身近な人に手助けしてほしいこと【全体版Ｐ４４】

地域の身近な人に手助けしてほしいことについては、「災害時の避難などの手伝いをしてほしい」が最も高く、次いで「悩みを聞いたり、相談相手になってほしい」、「通院・買い物などの外出の手伝い」となっています。

■医療や健康管理の状況について

健康管理や医療について、困ったり不便に思ったこと【全体版Ｐ４７、１２４】

健康管理や医療について、困ったり不便に思ったことについては、【障がい者】【障がい児】ともに「とくに困ったことはない」が最も高くなっています。

次いで【障がい者】では、「医療費の負担が大きい」、「医療スタッフ（医師、看護師等）の障がいに対する理解が不十分」、【障がい児】では「医療機関と福祉や教育分野との連携が不十分」、「専門的な治療を行う医療機関がない」となっています。

■日中の過ごし方などについて

平日の日中の過ごし方【全体版Ｐ４９、１２６】

平日の日中の過ごし方についてみると、

【障がい者】では「自宅にいることが多い」が最も高く、次いで「働いている」、「福祉施設、作業所などに通っている」となっています。

年齢別でみると、【10 歳代】【20 歳代】【50 歳代】で「福祉施設、作業所などに通っている」、【20 歳代】【30 歳代】で「働いている」の割合がそれぞれ高くなっています。

障がいの種類別では【知的障がい】で「福祉施設、作業所などに通っている」の割合が高くなっています。

【障がい児】では、「幼稚園や保育所（園）、学校などに通っている」が最も高く、次いで「福祉施設、作業所などに通っている」「自宅にいることが多い」となっています。

収入を伴う仕事の有無【全体版Ｐ５０】

【障がい者】の、収入を伴う仕事の有無についてみると、「収入を伴う仕事をしている」が 26.0%、「収入を伴う仕事はしていない」が 71.0%となっています。

年齢別でみると、【20 歳代】【30 歳代】で「収入を伴う仕事をしている」の割合が「収入を伴う仕事はしていない」を上回っています。

仕事をするうえで困っていること【全体版Ｐ５３】

【障がい者】の、仕事をするうえで困っていることについてみると、「とくに困っていることはない」が最も高く、次いで「給与・賃金などが少ない」、「障がいに対する職場の理解不足」となっています。

前回調査と比較すると、とくに「給与・賃金などが少ない」「業務内容が合わない」「職場の人間関係」で増加傾向、また、「とくに困っていることはない」で減少傾向がみられます。

年齢別でみると、【10 歳代】【20 歳代】【40 歳代】【50 歳代】で「給与・賃金などが少ない」、【30 歳代】で「障がいに対する職場の理解不足」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【精神障がい】で「給与・賃金などが少ない」の割合が高くなっています。

就労支援として必要なこと【全体版Ｐ５５】

【障がい者】の、就労支援として必要なことについてみると、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が最も高く、次いで「わからない」、「短時間勤務や勤務日数などの配慮（１日の労働時間や１週間の勤務日数を短くするなど）」となっています。

年齢別でみると、【70 歳以上】を除くすべての年代で「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【知的障がい】【精神障がい】で「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」の割合が高くなっています。

■相談や情報入手の状況などについて

悩みごとや心配ごとの相談先【全体版Ｐ５７、１３６】

【障がい者】の、悩みごとや心配ごとの相談先についてみると、全体では「だれにも相談していない」が最も高く、次いで「友人、知人」、「病院・診療所」となっています。

年齢別でみると、【20 歳代】で「福祉施設や作業所の職員」、【40 歳代】で「病院・診療所」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【身体障がい】で「だれにも相談していない」、【知的障がい】で「福祉施設や作業所の職員」、【精神障がい】で「病院・診療所」の割合がそれぞれ高くなっています。

【障がい児】の、相談相手についてみると、「幼稚園・保育所（園）・学校の先生」が最も高く、次いで「病院・診療所」「同じ悩みをもつ子の保護者」となっています。

前回調査と比較すると、「市役所の福祉相談窓口」「相談支援事業所」で増加傾向がみられます。また、「同じ悩みをもつ子の保護者」で減少傾向がみられます。

年齢別でみると、【０～６歳】で「児童発達支援センター」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では、【身体障がい】で「病院・診療所」、【知的障がい】【精神障がい】で「幼稚園・保育所（園）・学校の先生」の割合が高くなっています。また【知的障がい】で「同じ悩みをもつ子の保護者」が同率で高くなっています。

障がい福祉サービスなどの情報入手先【全体版Ｐ５９、１３８】

【障がい者】の、障がい福祉サービスなどの情報入手先についてみると、「市の広報紙（広報テープを含む）」が最も高く、次いで「障がい者のしおり（「北本市障がい福祉のしおり」など）」、「わからない」となっています。

年齢別でみると、【10 歳代】【30 歳代】で「相談支援事業所」、【20 歳代】で「障がい者のしおり（「北本市障がい福祉のしおり」など）」、【40 歳代】【60 歳代】以上で「市の広報紙（広報テープを含む）」の割合が最も高くなっています。

障がいの種類別では【身体障がい】で「市の広報紙（広報テープを含む）」、【知的障がい】で「相談支援事業所」、【精神障がい】で「病院、診療所」の割合が最も高くなっています。

【障がい児】の、情報の入手先についてみると、「友人、知人」が最も高く、次いで「学校、職場、施設」、「相談支援事業所」となっています。

前回調査と比較すると、「障がい者のしおり（「北本市障がい福祉のしおり」など）」「テレビ、ラジオ、新聞」「学校、職場、施設」「相談支援事業所」で減少傾向がみられます。

障がい福祉サービスなどの情報についての満足度【全体版Ｐ６１、１４０】

【障がい者】の、障がい福祉サービスなどの情報についての満足度についてみると、「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、「満足している」「少し満足している」を合わせた“満足”が21.2%、「あまり満足してない」「満足してない」を合わせた“不満”が23.3%となっています。

年齢別でみると、【50 歳代】で「満足していない」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【精神障がい】で「満足していない」の割合が高くなっています。

【障がい児】の、情報の満足度についてみると、「どちらともいえない」が最も高くなっています。また、「満足している」「少し満足している」を合わせた“満足”が 26.5%、「あまり満足してない」「満足してない」を合わせた“不満”が 36.0%となっています。

年齢別でみると、【０～６歳】で「あまり満足していない」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では、【身体障がい】で「あまり満足していない」の割合が高くなっています。

■障がい福祉サービスについて

サービス利用の有無・今後の利用意向【全体版Ｐ６４・６５、１４１・１４２】

【障がい者】の、サービス利用の有無についてみると、「計画相談支援」が最も高く、次いで「生活介護」、「自立訓練」となっています。

サービスの利用意向についてみると、「計画相談支援」が最も高く、次いで「移動支援」、「短期入所」となっています。

【障がい児】の、サービス利用の有無についてみると、「児童発達支援」が最も高く、次いで「放課後等デイサービス」、「障害児相談支援」となっています。

前回調査と比較すると、「児童発達支援」で増加傾向、「障害児相談支援」で減少傾向がみられます。

今後の利用意向についてみると、「放課後等デイサービス」が最も高く、次いで「短期入所（ショートステイ）福祉型」、「保育所等訪問支援」となっています。

市の障がい福祉サービスを十分に利用できていると思うか【全体版Ｐ７０、１４６】

【障がい者】で、福祉サービスを十分に利用できていると思うかについてみると、「現在サービスは利用していない（必要がない）」が最も高く、次いで「十分には利用できていないと思う」、「十分ではないが、ほぼ利用できていると思う」「わからない」となっています。

前回調査と比較すると、「十分には利用できていないと思う」で増加傾向がみられます。

年齢別でみると、【50 歳代】で「十分には利用できていないと思う」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【精神障がい】で「十分には利用できていないと思う」の割合が高くなっています。

【障がい児】で、福祉サービスを十分に利用できているかについてみると、全体では「十分には利用できていないと思う」が最も高く、次いで「十分ではないが、ほぼ利用できていると思う」、「十分、利用できていると思う」となっています。

前回調査と比較すると、「十分には利用できていないと思う」で増加傾向がみられます。

年齢別でみると、【０～６歳】以外で「十分には利用できていないと思う」の割合が最も高くなっています。

障がいの種類別では、【知的障がい】で「十分には利用できていないと思う」の割合が最も高くなっています。

■災害対策について

災害時に困ると思うこと【全体版Ｐ７６】

【障がい者】で、災害時に困ると思うことについてみると、「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」が最も高く、次いで「投薬や治療が受けられない」、「安全なところまで、迅速に避難することができない」となっています。

前回調査と比較すると、「周囲とのコミュニケーションがとれない」で増加傾向がみられます。

年齢別でみると、【10 歳代】【30 歳代】で「安全なところまで、迅速に避難することができない」、【20 歳代】【60 歳代】以上で「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」、【40 歳代】【50 歳代】で「投薬や治療が受けられない」の割合が最も高くなっています。

障がいの種類別では【身体障がい】【精神障がい】で「投薬や治療が受けられない」、【知的障がい】で「安全なところまで、迅速に避難することができない」の割合が高くなっています。

■権利擁護などについて

障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じることがあるか【全体版Ｐ７７、１４８】

【障がい者】で、障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じることがあるかについてみると、「ほとんどない」が最も高く、次いで「たまに感じる」、「わからない」となっています。

年齢別でみると、【10 歳代】【40 歳代】で「いつも感じる」の割合が高くなっています。

【障がい児】で、障がいがあることで、差別や人権侵害を受けていると感じることの有無についてみると、「たまに感じる」が最も高く、次いで「ほとんどない」、「わからない」となっています。

どのようなときに、差別や人権侵害を受けていると感じるか【全体版Ｐ７８、１４９】

【障がい者】で、どのようなときに、差別や人権侵害を受けていると感じるかについてみると、「外での人の視線」が最も高く、次いで「仕事や収入面」、「近所付きあい・地区のあつまり」となっています。

年齢別でみると、【40 歳代】で「仕事や収入面」、【60 歳代】で「コミュニケーションや情報の収集」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【精神障がい】で「仕事や収入面」の割合が高くなっています。

【障がい児】で、差別や人権侵害を受けていると感じる場面についてみると、「教育の場」が最も高く、次いで「外での人の視線」、「近所付きあい・地区のあつまり」となっています。

前回調査と比較すると、「教育の場」で増加傾向がみられます。また、「学習機会やスポーツ・趣味の活動」「外での人の視線」で減少傾向がみられます。

■将来の希望などについて

希望する日中の過ごし方【全体版Ｐ８５、１５４】

【障がい者】で、希望する日中の過ごし方についてみると、全「自宅でのんびり過ごしたい」が 61.5%と最も高く、次いで「わからない」、「一般企業などで働きたい」となっています。

年齢別でみると、【10 歳代】で「施設で、入浴、排せつ、食事の介護を受けながら、創作的活動などを行いたい」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【知的障がい】で「施設で、入浴、排せつ、食事の介護を受けながら、創作的活動などを行いたい」、【精神障がい】で「一般企業などで働きたい」の割合が高くなっています。

【障がい児】で、希望する日中の過ごし方についてみると、「一般企業などで働いて欲しい」「一般企業などでの就労は難しいと思うが働いて欲しいので、施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごして欲しい（就労継続支援）」が最も高く、次いで「施設や企業で作業や実習などを行い、職場探しや職場定着のための支援を受けて欲しい（就労移行支援）」となっています。

障がいの種類別でみると、【身体障がい】で「施設で、入浴、排せつ、食事の介護を受けながら、創作的活動などを行って欲しい（生活介護）」、【知的障がい】で「一般企業などでの就労は難しいと思うが働いて欲しいので、施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごして欲しい（就労継続支援）」、【精神障がい】で「一般企業などで働いて欲しい」の割合が高くなっています。

希望する暮らし方【全体版Ｐ８７、１５６】

【障がい者】で、将来希望する暮らし方についてみると、「自宅で（現在の）家族と暮らしたい」が最も高く、次いで「ひとりで自立して暮らしたい」、「わからない」となっています。

年齢別でみると、【20 歳代】で「ひとりで自立して暮らしたい」、30 歳代以下で「結婚して家庭をつくって暮らしたい」の割合が高くなっています。

障がいの種類別では【精神障がい】で「ひとりで自立して暮らしたい」「結婚して家庭をつくって暮らしたい」の割合が高くなっています。

【障がい児】で、将来希望する暮らし方についてみると、「自宅で家族と暮らして欲しい」が最も高く、次いで「アパートやマンションを借りるなどして自立して暮らして欲しい」、「グループホームのようなところ（介護や支援、見守りがある少人数の共同生活の場）で暮らして欲しい」となっています。

■子どもの権利について

北本市の子どもの権利条例の認知度【全体版Ｐ１６０】

【障がい児】で、北本市の子どもの権利条例の認知度についてみると、「聞いたことはない」が最も高く、次いで「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」、「聞いたことはあるが、内容は知らない」となっています。

北本市でまだ十分ではないと感じる項目【全体版Ｐ１６１】

【障がい児】で、北本市でまだ十分ではないと感じる項目についてみると、「困っていること及び不安に思っていることについて相談できること。」が最も高く、次いで「あらゆる差別及び不当な扱いを受けないこと。」、「安心して過ごすことができる居場所が確保されること。」となっています。